

イベント報告・お知らせ

フリーマーケットに出店

10月30日、季節外れの台風が関東沿岸を通過した日に、AOTS(海外技術研修協会)主催のフリーマーケットに金沢ラウンジも出店しました。

来場者はほとんどAOTSに滞在している海外からの研修生でした。ラウンジからは、冬を迎える時期を考慮し、主に冬物衣類を出品物として用意したところ、研修生の皆さんに大好評で、飛ぶように売れました。購入者の中には、母国に居る家族のために品物を選ぶ人達もいました。関係者一同皆様のお役に立つ事が出来、嬉しく思っています。



初めてのバスツアー

10月31日に中国・タイ・ペルー・インドネシア・エルサルバドルからの参加者と日本人・部員等の総勢40名でバスツアーを実施しました。

グループごとに座り、バスの中でふれあいを深めました。戦艦「三笠」や江戸時代に浦賀水道の安全を守っていた燈明堂を見学しました。バスの中からはペリーの上陸記念碑を見て、ソレイユの丘へ。

ソレイユの丘では一緒に昼食を食べた後、動物と触れ合ったり、芝そりで遊んだり、休憩室でおやつを分け合ったり、話をして交流を楽しみました。



国際交流部イベントお知らせ

「料理で国際交流6」韓国料理

韓国のお正月料理を教えてください。皆で作って味わいましょう。

日時: H23年2月19日(土)
10:00~14:00

会場: 能見台地区センター 料理室

持ち物: エプロン、タオル

参加費: 1500円/1人
(材料費、保険代)

抽選20名、後日はがきにて返信

申し込み方法: 往復はがきにて1月25日までに下記住所に送ってください。

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2

横浜市立大学内 シーガルセンター2階
金沢国際交流ラウンジ「韓国料理」宛



「料理で国際交流シリーズ5 インドネシア料理」

12月4日(土) 能見台地区センター料理室にて、インドネシアの斉藤キキ様を講師として「インドネシアの家庭料理」の講習会を実施しました。4つのグループに分かれ、26名の参加者で、ナシゴレン・ビーフスープ・バナナフライのアイスクリーム添えを作りました。ナシゴレンというインドネシアのチャーハンはピリリと辛く、日本のチャーハンとは一味違う味でした。又、終了時に感想を書いていただき、皆さん年代の異なる人との出会いが楽しかった、お料理もとてもおいしかったという嬉しい感想をいただきました。

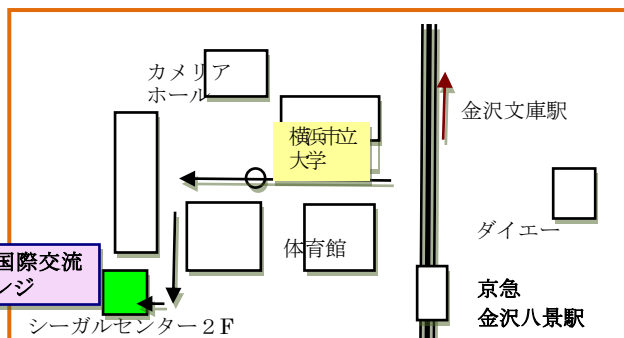


ラウンジ窓口のご案内

《開館時間》 日・火・木・金・土・9:00~17:00、
水: 9:00~21:00 月・祭日は休館
(外国語対応) スペイン語 火曜午後・中国語 水曜午前

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2

横浜市立大学内 シーガルセンター2階



☎ 045-786-0531 Fax 045-786-0532

➤多言語案内 金沢国際交流ラウンジ

毎週火曜日 13:00~17:00 スペイン語

Todos los martes 13:00~17:00 español

毎週水曜日 9:00~13:00 中国語

毎星期三 9:00~13:00 中国語

➤〔日本語教室〕

場所: 金沢国際交流ラウンジ

日曜日 10:00~11:30

火曜日 10:00~11:30

木曜日 10:00~11:30

土曜日 10:00~11:30



金沢国際交流ラウンジニュース

No. 15

2011年1月20日発行

KANAZAWA
INTERNATIONAL
LOUNGE

発行 金沢国際交流ラウンジボランティア会
〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2 横浜市立大学シーガルセンター2F
TEL: 045-786-0531 / FAX: 045-786-0532
URL <http://www.kanazawalounge.org/>

11月6日ラウンジフェスティバルを開催しました

地域に根ざす国際交流・ラウンジフェスティバルを鑑賞して

市大 学務・教務センター長 中川 潤

昨年度に引き続き今年もラウンジフェスティバルを鑑賞させていただきました。金沢区と区民が運営する金沢国際交流ラウンジが、WE21 ジャパンかなざわ、横浜市立大学生、その他様々なボランティア団体と連携し、アジアをはじめ各国の人々と市民目線で交流を深めていることに、感慨を新たにしました。

40 数年前、フランス語を教えてくれていたベトナム留学生達(当時のベトナム知識人は、旧宗主国のフランス語が堪能)との交流は、ベトナム戦争反対運動をしたとの理由で、南ベトナム政府より送金停止と、帰国命令を受けた留学生達の命を守る「在留支援活動」という、極めて緊迫したものに変わらざるを得ませんでした。今は異文化理解、多文化共生が日常の言葉として語られる時代となり、小学生でも他国の文化を体感できる時代になったことは、大変幸せなことです。今回は、民族楽器の詳細な説明と迫力のある演奏、普段は聞けない大使館員による母国の紹介、地域に根ざしたNPO各団体の活動報告など、盛り沢山のメニューを楽しませていただきました。多文化共生ができることは、その地域の方々の文化レベルが高いことを示しています。国際都市横浜の市民として、活動が一層推進されることを願っています。

横浜市立大学生参加

フェスティバルの司会を担当して

市大 3年生 秋元 啓輔

今回は司会という立場で、このようなイベントに関わらせていただき、少なからず緊張はありましたが、ラウンジの皆さんや出演者の皆さんのおかげで無事に終えることができ非常に嬉しく思っています。

このようなイベントによって地域が一丸となり、自分達の住んでいる地域への関心や知識を深めること、さらには広く世界を見つめることは、グローバル化が進んだ現代社会において必要不可欠なことではないでしょうか。世界を見つめることは、思いの外身近なことであり、大それたことをする必要はありません。僕のような学生がより積極的に、このような地域のイベントに参加していくことを期待しています。

フェスティバルに参加して

ユタポン 前田

フェスティバルで、いろいろな国の人達の歌や楽器演奏を聞き、文化紹介などを見て、みんなと一緒に参加できたことを嬉しく思いました。どの発表もよかったし、自分のムエタイの演技も自分としては、満足出来る演技だったと思います。このような楽しいフェスティバルなので、多くのお客さんに見て欲しいと思いました。次の機会には、案内のパンフレットを家族や友達、地域の人達にも配り、地域の学校にも連絡し、生徒の皆さんにも参加を呼びかけたいと思います。

フリーマーケット、屋台の出店、民族衣装を着たおどりなどあったらいいとの参加者からの声もありました。みんなが楽しく参加できるイベントをみんなで作っていただけたらと考えます。



オーストラリアとの交流を通して

ミモザの会

代表 福本 利子

今回、ミモザの会の活動を子どもたちと共に、多くの方にお伝えできたことをうれしく思います。ミモザの会の活動も今年で22年目です。学校、地域の方たちに支えて頂きながら、多くの子どもたちが、オーストラリアとの交流を体験し、その時だけの一過性の交流ではなく、帰国後もホストファミリーと家族の交流を続けていることが、私たちの交流の宝物だと思います。また、この交流を通して、“オーストラリアの子どもたちと友だちになりたい!”という夢が、子どもたちの未来の夢へとつながって、生きる支えとなってくれることを願っています。(こどもたちの感想)

- ・交流をたくさんの方たちに伝えられてうれしかった。
- ・伝えたい気持ちを一生懸命表現すれば、伝わった。
- ・“交流しよう”という気持ちが言葉の壁を乗り越えた。
- ・オーストラリアの友達と再会できてとても嬉しかった。
- ・なかなか体験できないオーストラリアの生徒たちとの楽しい交流を知ってもらった。
- ・この交流を、たくさんの方々に経験してもらいたい。



文化紹介

国際協力

国際交流

2010' 第2回

金沢ラウンジフェスティバル 11・6 (土)
KANAZAWA International Lounge Festival

日本語と母国語で朗読した外国人児童たちの感想

六浦小学校 3年 林 健誌

最初、「田舎のねずみと町のねずみ」をえらんだ理由は、この文章は短い、読みやすくおもしろいと思ったからです。でも武田先生が自分の読むところを自分の生まれた国のことばでいいなさいと言われたので、ぼくは泣きました。ぼくは中国語になおすのがへただったからです。けれど、ぼくはあきらめませんでした。ぼくは、父と母に中国語をならいました。いよいよステージに上がると100パーセントこわかった。ぼくは、まん中に立って、一番目立ったからです。発表が終わったとき、ちょっと笑いました。クラスの先生とママが、発表にまに合わなかったのが残念かったです。



八景小学校 4年 金 揆珉

インソップ物語の中で最もいいのが「いなかのねずみと町のねずみ」だったので、この物語に決めました。面白いし、皆が分りやすいと思ったからです。僕はいなかのねずみを読む事になりました。健誌君が町のねずみを読む事になり、お姉ちゃんはいせつをしました。そしてフェスティバルの前日は何回か練習しなさいとお父さんに言われました。当日いよいよステージに上がりました。まず自己紹介してから読みました。間違えそうできんちょうしたけどうまくなりました。あとで先生にほめられました。発表が終わったら友達からきねん写真をとってもらい、花束をもらいました。日本にいい思い出になりました。



八景小学校 5年 金揆璃

わたしは、フェスティバルで、全体のあらすじを解説しました。読むのが長くて、はじまる前には、すごく緊張しました。ステージに上がった時、最初は、きんちょうしたんですが途中では、ドンドン自信がでてきて、うまく朗読できました。うまくできたので良かったと思いました。終わった後の気持ちは、スッキリした気持ちでした。そのあとで武田先生がほめてくれました。すごく嬉しかったです。後でお母さんに武田先生と三人で写真を撮ってもらいました。この思い出は韓国に帰っても忘れないと思います。



市大“奏”演奏

市大 学務・教務センター長 中川 潤氏挨拶

市大生受付

市大生司会

チリ:サルサダンス “みんなで踊ろう”

ペルーと金沢区のこどもたちの絵画共催展

「アートで国際交流：横浜金沢とペルー」のつながり
金沢区に野口英世博士ゆかりの旧細菌検査室跡があり、ペルーにも日系ヒデオ ノグチ学校があるので関係があるため絵画作成と一緒に取り組み、会場に展示した。